ウェブサイト公開用（一般公開）

令和３年度　第２回富士市総合教育会議　　会　議　録

開催日	会議場
令和４年１月２１日　金曜日 開　会　　１５時００分 閉　会　　１６時２１分	富士市教育プラザ１階　会議室１～３

出席者の氏名

市　　長	小長井　義　正	教育委員	篠　原　　均
教　育　長	森　田　嘉　幸	教育委員	松　田　靖　子
教育長職務代理者	和久田　惠　子	教育委員	塩　谷　知　一

出席職員等の氏名

教育次長	片　田　　等	教育総務課調整主幹	小長谷　　聡
教育総務課長	味　岡　俊　雄	教育総務課参事補	清　　聡　美
学校教育課長	齊　藤　隆　裕	教育総務課参事補	吉　村　直　也
学務課長	榎　　俊　英	教育総務課指導主事	米　田　一　也
社会教育課長	吉　田　和　洋	教育総務課指導主事	山　田　英　雄
中央図書館長	加　藤　豊　裕		
富士市立高校事務長	青　木　　洋		
教育研修・特別支援教育センター所長	川　崎　里　恵		
青少年相談センター所長	山　田　　馨		傍聴人２名

議題（動議）及び議事の大要

（議　案）

議第２号　富士市立高等学校１０年の実績と今後の取り組み

（報　告）

教育振興基本計画の策定について

ウェブサイト公開用（一般公開）

開会
教育次長
（開会）

市長あいさつ
市長
皆さん、こんにちは。教育委員の皆さんには何かとお忙しい中出席いただき、ありがとうございます。
コロナの状況でありますが、オミクロン株ということで、大変感染力の強い変異株で、急速に感染が拡大している状況であります。知事も昨日、まん延防止等重点措置の発令について国に要請をしたという状況で、週明けにはその方向になっていくのかと思っています。我々も何とか拡大を抑えなければならないということで、様々な対策をしっかりと講じてまいりますが、特にワクチン未接種の小さな子どもを中心に感染が広がっているということも、大変心配しているところであります。症状が軽いということなので、とにかく重症化をさせない、そして自宅療養をする場合も、医療提供体制や生活支援をしっかりと体制を整えていかなければなりません。そちらのほうは医師会としっかりと連携をしながら、万全を期していきたいということを、冒頭にお話ししたいと思ったところであります。
さて本題に入りますが、今回議題としている富士市立高等学校は、昭和 37 年に吉原市立商業高等学校として設置をされ、昭和 41 年の２市１町の合併に伴い、富士市立吉原商業高等学校となり、その後平成 23 年に富士市立高等学校に名称を変更するとともに、３つの探究科を設け現在に至っています。富士市立高校となってから昨年度で 10 年という節目を経過し、今年度から次の 10 年に向けて新たなスタートを切っています。今では故郷を愛することを大事にしながら、夢の実現にチャレンジし、様々な世界で活躍する若者の育成を目指すとともに、地域に開かれたコミュニティ・ハイスクールとして、市民の皆様から身近な存在となっています。さらに特色ある学習活動として、コミュニケーション力や表現力等を高める課題解決型学習「究タイム」を取り入れており、これまでも市役所プラン等で、多くの生徒が地域の一員として活躍をしています。
本日は予測困難な社会の中で、生徒がより活躍するため、今まで以上に魅力的で特色のある学校となるにはどうしたらよいのかについて、活発な意見交換を行っていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。
私からは以上であります。

教育次長
本日のテーマは富士市立高等学校 10 年の実績と今後の取り組みについてであります。それではこれから議事に移りたいと思います。進行については、この会の主宰者である市長にお願いしたいと思います。市長、よろしくお願いします。

ウェブサイト公開用（一般公開）

議事
議第２号「富士市立高等学校 10 年の実績と今後の取り組み」
市長
　それでは進行役を務めさせていただきます。
　本日の議事は、議第２号「富士市立高等学校 10 年の実績と今後の取り組み」についてであります。まず事務局から、これまでの取り組みや今後の課題などを説明していただき、その後教育委員の皆様と意見交換をしていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。
　それでは事務局の説明をお願いします。

事務局
　（「富士市立高等学校 10 年の実績と今後の取り組み」について、資料に基づき説明する。）

市長
　以上で事務局からの説明を終わりにします。
　それでは、ただいまの説明について、皆様から御意見、御質問等をもらいたいと思います。まずこの資料の１ページから８ページまでが、これまでの 10 年間の実績ということで示されています。９ページ以降は、今後の取組ということで書かれています。それを分けて、皆様から御意見をもらいたいと思います。まず、これまでの 10 年の実績についてということで、資料は８ページまでの間で、皆様から御意見、御質問等をもらいたいと思います。よろしくお願いします。
　今説明があったように、富士市立の高校として郷土のために、また、郷土の人材を育てていくという基本的な考えのもと、探究学習という新たな取組をしてきて 10 年。それが今評価されているのではないかと思っています。今回議会の方で、この富士市立高校について資料や説明を求められたのは、少子化の中でどこの高校も、特に県立高校において定員割れをしていく中で、富士市立高校もそうでありますが、市が高校教育を担うべきかどうかといった議論があり、そういったものに対する説明をする機会をいただいたということであります。富士市に対して非常に貢献をしているということは、数字上でもよく示されていて、多くの議員の皆様は、この 10 年間の取組について高く評価をしてくれていました。また、富士市として高校を運営していく意義についても、私の聞く限りでは御理解をいただいたという思いがあります。ただそうは言っても、先ほどにもあった少子化で定員割れという状況があり、さらに去年から今年にかけて生まれた子どもの数は、この数字よりも２割ぐらい少ない数であります。これは周辺の自治体においても同じ傾向であります。そうすると高校が１つや２つ無くなっても、十分足りてしまうのではないかという感じになります。厳しい状況は変わらないということで、今後、富士市立高校がどのような高校を目指していくのかということについては、議論の後半に皆様から、こうあるべきではないかとか、こういったことをもっと積極的に取り入れたらいいのではないかといった御意見をもらいたいと思います。
　では、前半部分、８ページまでの資料や説明に対して、何か御質問や御意見があれ

ばお願いします。
　教育長は何かございますか。

教育長
　私自身 10 年以上前の吉原商業高校時代から、中学校の教員として、商業高校から市立高校の流れを、教育長という立場になる前から期待をして見ていました。一番変わったのは、市立高校に通っている子どもたちの認識、意識が大きく変わったと思います。中学生も、商業高校の先輩というよりも、市立高校になった先輩の姿への敬意を持っていました。市立高校の先輩たちがすごく自分たちの学校に誇りを持っているということと、自分たちが学んでいる探究学習や、部活動にプライドを持っていること、それらを発信してくれているということであります。その姿を中学生たちやその保護者たちは、よく感じていたように思います。特にこの 10 年間の実績の中で、内容的にはもちろん今説明があったように、いろいろと実績を持っていますが、もっとも大きく変わったのは、市立高校の子どもたち自身が自分たちの学びに誇りを持ち、そして、将来生きることへの自信を持って卒業しているのではないかということであります。そういう教育がなされているということに、私は改めて、教育長という立場からも誇りに感じています。そうしたことを今後も伸ばしていきたいと考えています。誇りが持てる市立高校で、これからもいてもらいたいと実感しています。

市長
　皆様から何かございますか。

教育委員
　先に質問をさせていただきます。この 10 年間で大きく変わったと、私も感じています。その中で、私たちが学生時代の頃の商業高校の位置づけとは、明らかに変わっていると思いますが、私たちが学生の頃には、第一志望に商業高校を選ぶという子は、ほとんどいなかったように思います。第二志望、第三志望でという話を聞いていました。今、市立高校の位置づけとしては、第一志望で市立高校に行きたいとういうような子どもたちが増えてきているのかどうかは、何かで把握できていますでしょうか。

事務局
　本校の場合は、昨年度も 30 名ほど定員割れをしていますが、本校を志望してくる生徒さんについては、ほぼ皆さんが第一志望であります。受験してくれた中学生が合格をした場合には、ほぼうちの高校に来てくれているので、受験する子どもたちは、ほぼ第一志望と考えてもらって結構です。

教育委員
　10 年間の歩みの中で、探究学習という独特なことを実践しながら打ち出し、それが認められてきたことが、すごく高く評価されているのだと思います。市立高校のあるべき姿というのは、やはり郷土を愛する心というのが最初に出ていましたが、ここがとても大事であり、先ほど見た円グラフにもありましたが、富士市に戻ってきてく

れているというのが、ものすごく大きな効果で、これこそがやはり市立高校を富士市が持っている価値ではないかと感じています。おそらく市立高校の中で、ものすごく郷土愛に根差したような探究システムや、究タイムであるとかをやりながら、自然と刷り込まれていったものがあって、富士市に戻ってきているのだと考えられます。そういう意味では富士市にとってはとても大事な高校なのではないかと感じています。

市長
　他にございますか。

教育委員
　先ほど、卒業生が看護医療系に進まれている方が多いのが特徴的であるとの説明をいただいたが、これも実績というか、今後看護医療系を目指す学生たちが市立高校を目指すということも、非常にアピールできるポイントとなると思います。ここの進路が多くなっているというのは、何か学校として、例えば市立看護専門学校とのつながりがあるなど、何かあってこのような結果となっているのか伺いたいです。

事務局
　本校の場合、確かに看護系、医療系に進む生徒が多くなっていますが、一つの要因としては部活動、特に運動部に所属している生徒が多く、そこで例えば故障してしまって、医療の方々にお世話になったり、リハビリでお世話になったりと、そこで非常に影響を受けて、自分もそういう方になりたいと、そういうことをきっかけに看護系や、特にスポーツ探究科ではリハビリ系を目指す子が多くなっていると思います。

市長
　他にございますか。

教育委員
　資料を見せていただきました。私の時も商業高校だったので、イメージが違うのかなと感じています。小学校や中学校での大人の関わりというのは、学校や家庭、地区といった、狭い範囲での関わりでありますが、高校になるとそこが広がった中で、市立高校の探究という授業で、それ以上のいろいろな大人の方との関わりや、学ぶ機会を広げてくれていると感じます。それにより、より具体的な卒業後の進路について、自分が何を学んでどうしたいのかというものが可視化できているのかと思います。そうすると、自分の進む道というものが、ある程度絞られた中で、また上の学校に行って、また自分で広げていくというところがすごく良いのかと思います。富士市で、市立高校に通っているという意識が、そこの中で自然と醸成されているといったシステムが、10 年かけてできていくのではないかなと思います。漠然と学校に行きたい、勉強したいというよりは、やはり職業を捉えたり、具体性が描かれたりして卒業されているのではないかということを、資料から感じました。

教育委員

お金のところに目がいってしまいました。6ページのところの施設ごとのコストということで、市立高等学校一人当たりの費用は205万4000円というと、これは1年間なので、1年間で200万円、3年間で600万円と、すごいお金だなと思います。これだけの税金を使っているのですかと。これはすごい金額であります。このことを生徒に伝えているのでしょうか。私だけかもしれませんが、私は結構研修に出なければいけないのですが、自分でお金を出して研修に行っています。タダと言われると、いまいち真剣さが欠けるように感じてしまいます。だからこれだけお金がかかっているということを、生徒にもぜひ伝えてほしいと思います。それをどこまで子どもたちが分かってくれるか分かりませんが、相当な金額が皆さんの税金から賄われているということを伝えることは、大事なことだと思いますので、ぜひ伝えていってほしいと思います。

商業高校のPTA会長をやっていた方から、うちの生徒は自信を持っていないという話を聞いたことを覚えています。今の話を伺って、これは自信を持ってやりなさいというふうにしてくれているのだと思いました。

市長

ありがとうございます。

前半の部分についてはどうですか。これだけ市の税金として負担されているということは事実で、それを伝えていくのかどうかでありますが。

事務局

確かに生徒が、自分に対してこれだけの税金が掛かっているという意識があるかないかと言えば、おそらくないと思います。ですので、この金額がどう授業で使えるかということは難しいところがあると思いますが、たくさんの税金を使ってということで、生徒の皆さんがそれだけ地域から期待されているよということは、いろいろな活動の中で、探究学習の中でも、伝えていくべきかと思いました。

市長

今のところで感想ですが、そのことだけを伝えるということは、なかなか難しいと思いますが、例えば富士市立ということなので、富士市や市政、行政を全般的に学ぶとなると、当然税から始まっていくでしょうから、それがどのような形で使われていくのかというところを、身近なところで考えてもらうための材料とすれば、当然高校の運営費は、富士市のお金でやっているんだよとすれば、非常に分かりやすいのではないかと思いました。探究学習の中では、地方自治ということがきっとあるでしょうから、その学びの中で、富士市立高校の経費についても伝えるということが大事だと思います。

それから、私はいつも入学式や卒業式の式辞の中で必ず校歌の一節を入れるようにしています。「われら郷土の栄えを担わん」というところですが、富士市立の高校で皆さんは富士市の発展のため、それを担っていく人材として育っていくためにこの高校があるんだよということを必ず言っているわけです。やはり常にそういう気持ちを

持ってもらうということも大事でしょうし、そのためには富士市のことを知ってもらい、富士市のことを好きになってもらわないといけないと思います。だから地域に根差した探究学習というものがあると思います。これが大事かと思います。日頃から探究学習の中で地域と関わったり、地域のことを学んだりすることで、富士市のことを知り、富士市のことを好きになってくる。そうすると富士市のために役に立ちたいと思ってくる。そういう良い循環を作っていくということが、これまでできていると思っていますので、今後それをいかにそういう方向で伸ばしていくかということが大事ではないかと、感想として持ちました。

皆様の方で、何か付け加えたいことはございますか。

よろしいでしょうか。これまでの 10 年間の取組ということで、まずは御質問、御意見、御感想をいただきました。これから厳しい、先ほどの少子化ということや私立の環境のこともですが、その中でどういう姿を目指していくのか。そのようなことについて議論ができればと考えています。

このことについて教育長は何かございますか。

教育長

10 年間の確かな実績を市立高校は持っていますが、その中でやはり特徴は、探究学習によって地域の魅力を知り、地域のためにどのように自分を生かし、そして具体的にどういう将来像を持っていくかということを、10 年間学んできました。先ほど事務局からも話がありましたが、こういう発想を持って 10 年前から市立高校はやっています。10 年遅れてと表現して良いかどうか分かりませんが、一般の高校においても、市立高校の探究的な学習の確かな学びというものが、これからの時代を生きる子どもたちにとっては、絶対に必要となる力なんだと見直されてきて、どの学校でも探究的な学習を大事にしていこうと考えていると思います。しかし、市立高校と他の高校との違いの中で、探究の魅力ということで絞って考えるならば、9ページにもあるように、地域との結びつきは、他の高校には無いものではないかと思っています。だから、これまでの探究の研究の中で、地元の企業と一体化した製品化、商品化もなされて、そして自分たちの座学だけではなくて、実際に自分たちが探究したことが形となって現れていき、それがそのまま地域の皆さんに喜ばれていく姿となっていく。また、市役所プランで、市の行政と一体化して自分たちの発想が、行政にどれだけ生きていくかということを、具体的な形で市政とつながっていくということになる。そうした地域との関連ということについては、他の学校ではなかなか真似のできない市立高校ならではの強みではないかと思っています。そうした点を伸ばしながら、探究的な能力を一層深化、発展させていくことが、市立高校のある姿として、より魅力を発展させていくのではないかと思っています。地域の企業の方々や、町内会をはじめとした方々、さらには行政との結びつきを、連携を図りながら行っていますので、より実践的な研究ができる環境が整っている学校ではないかと思います。そうした魅力をどんどん引き出しながら研究のできる学校にしていきたいと考えています。

市長

ありがとうございます。委員の皆様から、何かございますか。

教育委員
　今の教育長のお話の中で、大きな役割を一つ果たせるのは、同窓会、同窓生の役割が大きいのではないかと思います。もともと地域密着型の高校であります。ホームページを見てみると、同窓会についても、全国大会に出場すると激励の奨励金を贈呈したり、奨学金を出したりとありました。同窓会も横のつながりはあるが、縦のつながりがあまりないような感じがします。そして一番感じたのは、同窓会にはだいたい名前がありそうですが、ただ同窓会と、そのままでしかないです。ネーミングだけで良くなるということはないでしょうが、何かネーミング、愛称をつけて、同窓会の縦のつながりを作っていければ、もともと地元密着型なので、何か大きな、教育長が言われたようなことの役に立つようなことができるのではないかと思いました。そのあたりで、同窓会をうまく使えたらなと思います。今もやっていることは分かりましたが、もっと活動できるのではないかと思った次第です。

市長
　同窓会は、どのような状況でしょうか。

事務局
　まず名称については本当にそのままではありますが、富士市立高等学校同窓会という名称でございます。委員のお話にあったように、それぞれの部活に対しての金銭的な支援であるとか、資格検定の費用支援といったことについては、非常に機能していると思っています。しかし、卒業した同窓会の皆様と現役の生徒が、金銭以外で何かつながりがあるかというと、なかなか正直、これは本校に限らないと思いますが、つながりは薄いと思います。今後、本校を卒業してすでに大学進学をしている方、あるいは就職をして、輝いて頑張ってくれている方などを本校にお招きし、何かキャリア支援の講座を行うといったような縦のつながりを持つことは、非常に重要だと考えますので、今後そのようなことを検討していければと思います。

教育委員
　吉原商業高校時代も含め富士市立高校ですが、どんな卒業生がいるのかと調べましたら、高野進さんや、加藤初さんのお二人ぐらいしか出てこなかったです。多分他にもいるとは思います。私の知識がそれぐらいということもあるとは思いますが、何か有名人というか、名前をアピールできるようなことがあると良いかと思いました。ホームページには載っていないので。そういうことがあると子どもたちも、こういう先輩がいるんだという思いになれると思います。

事務局
　本校はまだ 11 年目ということもあり、それほど卒業生も多くはないですが、近いところで言うと、楽天イーグルスに昨年ドラフト３位で入った藤井さんがいます。藤井さんも非常に本校のことを思ってくれていて、年始の挨拶に先日急遽来てくださり、野球部生徒の激励に来てくれました。非常に本校の生徒にとっても励みになりました。あとは、新しいところだと、陸上の駅伝で輝いている水口さんがいます。大阪学院か

ら実業団で活躍しています。そういう方もいるので、できればそういう方との交流ができれば、生徒もより励みになるのかなと思いました。

市長
　おそらく商業高校の頃からそういう活躍をされている方も大事ですが、新しい学校になって 10 年ちょっとですが、そういう身近に活躍されている方などがたまに学校に帰ってきて、子どもたちの前で話をするという機会をどんどん作っていくと、励みになると思います。

事務局
　今の話ですが、話題に出ている市役所プランの校内発表の時に卒業生が参加してアドバイスを送るとか、キャリア講演会とまではいかなくても、学年集会の場に卒業生が来てくれて自分の経験を語ってくれるといったことは、少しずつ増えています。さらに今後増やしていければと思います。

市長
　ぜひお願いしたいです。
　他にございますか。

教育委員
　高校教育からは少し離れてしまうかもしれませんが、市立高校に 22 名しか就職希望者がいないにも関わらず、229 事業所から求人が来ているということでした。これはものすごいことなのかなと感じています。大学進学率がかなり増えてきている中、４年後この市立高校との何かのつながりがあれば、必ず富士市に帰ってきて、富士市で働いて、富士市で生活するというような、システムみたいなものがあればと思いました。今は、大学を卒業するときに、就職情報会社や大学のキャリア室等に相談をしながら、企業に行くというのが、学生さんのある程度のルートだと思いますが、それプラス、自分が出た高校に戻って就職の相談ができると、より具体が身近に見えて、御家族も含めて御本人も安心できると思います。229 もの数が市立高校に来ているので、そういう良いところを伸ばすためにも、この数をそういうことに使えるのではないかと思いました。

市長
　高校卒業時点で採用というところと、大学を出てからというところで、企業側の考え方も違うのでしょうが、いずれにしてもそういう方が大学を卒業して富士市へと帰ってきて、そういう事業所に就職して、そういう人材になってくれれば、長い目で見て良いのかと思います。せっかくこれだけのものがありますので。

事務局
　大学を卒業した後の進路について、本校に相談に来るということはやっていません。それにつながるかどうかは分かりませんが、この 229 の事業所が本校に求人に来てく

ださるのは、地域連携とそれに伴ったインターンシップが大きな影響を出しているのかと思います。本校はインターンシップに非常に力を入れていますので、各市内の事業所にインターンシップで出かけています。そして、そこで本校の生徒たちは一生懸命やりますので、そこで各事業所からの信頼を得ているというところもありますので、今後より広く、中小の事業所を含めた市内でのインターンシップを拡大していくというのも一つの手かと考えます。

市長

就職希望の生徒がだんだん少なくなっています。大学進学が一つの目標だから進学率を高めていったわけですが、高校生の人材がとにかく市立高校以外でも少ないということであります。工業系などはこういう状態で、工業の生徒がどんどん少なくなって、大学進学も工業で多くなっています。そうすると工業系の人材が欲しいといっても、なかなか採用できないというのが現状だと思います。

教育委員

この倍率はどうかというところがあります。これから人がどんどん少なくなっていくので、みんなが大学に入れる時代になっていったときに、中小企業は人を採るところが無くなっていくのが見えています。そういう意味では、市立高校や工業高校さん、あとはもう少し富士市に、それらの高校を出た後の行先としての専門学校などがあると、富士市で囲いきれるなと思っていまして、昔から要望しています。ここを卒業した後に行ける進学先が、富士市に欲しいと思っています。市立の高校なので、将来の富士市を担う人材の育成と、コンセプトである郷土愛を胸にというのは、今後 10 年間も持っていただかないといけないのではないかと思います。しかし、郷土に対する理解を深めるためだけに高校に行くという子どもたちはいないので、その高校に行ったときに何ができるようになるのか、何かできるようになるために何を学ばせてくれて、それはどんな方法かということのＰＲを、もっとすべきだと思います。探究学習自体が全国で始まっていくとすると、どこをＰＲのポイントにするのかというところを決めて、それを訴えられるようなソフトを作って、ちらしも作って、学校の説明会などで大いに活用してもらいたいと思います。このパンフレットの７ページにある、変化の激しい社会を生き抜く力を育成するということは、まさにここが、私たちが必要とする人材であります。子どもたちもこれができないと社会に出て何もできなくなってしまうので、非常に力強い言葉だと思いました。しかしその反面、ビジネス探究科が定員割れしているという話がありましたが、商業系専門学科という言葉が入っています。これをこのまま生かしていくのかということや、前進が商業高校だったので、これを生かしてここを課題にしてやっていくというのであれば、もう少し今風のやり方をしないと、昔の簿記的なイメージが出てしまって敬遠されてしまうような気がしますので、今はＡＩを使ったり、ＩＴを使ったりと、事務系のこともものすごく先進技術が必要となった生産管理システムなどもあるので、そういうことをもう少し訴えられるような形にしても良いと感じました。これから 10 年というのは、３ＤのデジタルものがＶＲになっていく時代になります。アバターのようなものが実際にその空間の中で車の試乗をし、なおかつそこで買ってしまうというところまでの仮想空間が

できる時代になっています。そういうところも視野に置きながら、次の世代を担うために、何ができるようになるのかというところをもう少し追究したものを、表に出せるようにすれば良いかと思いました。

市長
　今ビジネス探究科の定員割れというのが関係するかなと思いますが、どうですか。より魅力のある学科というところで、内容の見直しをしなければならないし、発信の仕方も考えなければならないと思いますが。

事務局
　確かにビジネス探究科というのは、商業系のイメージが強く、特に中学生の保護者の皆様は、ビジネスイコール商業というイメージが強いかと思います。だから、この商業系という言葉については、確かに御指摘の通り変えていくという方法もあるのかと思っています。ビジネス探究科の良いところとして、多様な進路に対応できるというところがあります。何かビジネスイコール就職というイメージも、保護者の皆様の中にはあるようです。しかし実際にはビジネス探究科から、ここで取った資格や、より深く探究学習を行って身に付けた力を活用して、国公立大学や有名私立大学への進学もしています。ビジネス探究科は、もちろん多様な就職先もありますが、進学についてもこれだけしているというＰＲも必要なのかと思いました。

市長
　専門的な知識や資格の習得や、それを活用して大学も行けるということで、お得だと思います。それが伝わっていないのかと。

教育委員
　まさに、何ができるようになって、それはどんなふうに学んで、何の役に立っていくのかということを、明確に見せていくことが大事だと感じます。

市長
　全くその通りだと思います。

事務局
　変化の激しい社会を生き抜く力を育成するというところが、探究学習のもう一つ重要なところになってきます。自分で考えて行動するということであります。答えがなかなかない社会で、周りの人と一緒に何か答えを自分たちで創っていくということをやっていきます。ビジネス探究科でもそういったところで、総合探究科よりもより実学に近いところで、社会によりつながるところで、そうした答えを見出していくような学習をやっていますので、ＰＲの仕方や、もう少し校内でも考えを深めて取り組んでいきたいと思います。

市長

非常に大事な視点だと思います。ビジネス探究科はどうしても定員割れで困った困ったではなくて、内容を少し見直すことは可能だと思います。外への出し方を少し変えることによって、全然見え方が違うでしょう。ぜひ考えていただきたいです。

教育長

今事務局が話したように、変化の激しい時代にたくましく生き抜く力ということで、これはこれからの学習指導要領の中心であり、高校だけでなく、その力は小学校からずっと積み上げていき、GIGA スクール構想の中で、いろいろな情報を活用し、その中で自分なりに新しい価値を創っていく学びを進めていこうということであります。今申し上げているのは、ある意味お題目の部分が強く、具体的に実際に小学校や中学校、高校でどんな学びをするのかということについては、なかなか具体として示すことができていないのが事実です。教育委員から、具体的に何が市立高校に行ったらできるのかというところを、しっかりと見つめてほしいと宿題をいただきました。市立高校で一番力になるのが、探究学習であります。変化というものは、まさに刻々と変化しています。授業の内容は、10 年スパンの指導要領では、実際にはとても追いつきません。今やっている学びが、明日、そして今の時代に合っているのかというと、私自身もどうなのかと思うことがあります。そうなるとやはり、生きた教材を市立高校の中にどれだけ取り込めるかということが大事で、その点で他の学校よりも強みになるのかと思います。ここには企業の社長さんもいます。そうしたつながりがあり、地元の企業との縁が深いので、授業の中に企業の方を講師として一定期間入っていただくなど、そうした現時点での生の変化していく姿を実体験でき、新たなる課題を実践的に学べることが、市立高校の魅力だと思います。これから必要になる力を打ち出しながら、市立高校が具体的に取り組めることがあると思いますので、そこを市立高校の魅力として発信し、実践的にやっていくということを提案したいし、そういう教育を進めていきたいと考えています。

教育委員

まさに今日説明していただいた中に、学校を取り巻く環境の厳しさがあったかと思います。子どもは減っていくし、私立も無償化になって条件が一緒になってくるということや、さらに先進的に進めていた探究学習がどこの学校でも実践されるようになってきて、差別化というか、今度はどういう新たな方向を見出していくかという難しい環境にあると思いますが、どこをＰＲしていくのかというところだと思います。学校側から、こういう人材がほしいと、ターゲットを明確にしたうえで魅力を発信していき、そういうターゲットの人が来ると、こういうことが学べるということを発信していただきたいと思います。そのために、部活動の部分では市立高校は非常に成功していて実績もありますし、この先生のもとで部活をしたいから市立高校に入りたいという人が多いかと理解していますが、それを部活以外にも、ビジネス面でも、学業面でも、先生になる方をどのように確保して、つながりを持っていくのかという視点でやっていくと、そういう先生のところだったら自分も行きたい、親も行かせたいという人が増えてくるのではないかと思います。ぜひ先生の確保やレベルアップという視

点も大事にしてもらえたらと思います。

市長
　今のことについてはどうですか。

事務局
　先ほど教育委員から意見をいただいたように、本校に来ると何が学べて、どういった力がついて、どういう自分に将来なれるかということは、中学生にとっても本当に必要なことだと思います。そういう魅力の発信をまずしていきたいと思います。あとは、本校の生徒に対しては、縦の連携もという話が先ほどありましたので、まずは先輩の皆さんに協力していただきたいと思います。市立高校を出て大学にいって、今市役所で活躍している職員もいますが、やはり本校の人物重視の面接の練習でちょっと協力してくださいというと、喜んで来てくれます。そういったことで、卒業生も含めて進路活動をやっていますので、そういったことも上手く活用したいです。また、地元の事業所の皆様を講師にお招きして、これは今もやっていますが、担当者が長けていますので、事業所と連携を取っています。それをさらに広げてということもやっていきたいと思います。皆様が市立高校の理解を深めてくれるとより良いのかと思います。

市長
　一通り委員の皆様からお話を聞かせていただいたが、非常に有意義といいますか、今後に向けて参考になる御意見をたくさんいただいたのではないかと思います。ありがとうございました。
　議第２号につきましては皆様方から御意見をいただきましたので、以上とさせていただきます。
　では、続いて報告事項に移ります。報告事項は、教育振興基本計画の策定についてであります。それでは事務局から説明をお願いします。

事務局
　（「教育振興基本計画の策定」について、資料に基づき説明する。）

市長
　ただいま事務局から、教育振興基本計画が策定されたとの報告がありました。来年度から富士市全体の市政運営の土台となる第六次総合計画もいよいよスタートしますので、この第六次総合計画と足並みを合わせて、教育委員会も施策を推進してもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。
　それでは本日の議事等が全て終了しましたので、事務局に進行をお返しします。

閉会
教育次長
　皆様、長時間にわたり意見交換いただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、本年度第２回目の総合教育会議を終了いたします。